

鹿児島県出水市（国内 27 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 12 月 7 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は丘陵地に位置しており、周辺を林に囲まれていた。
- ② 当該農場はウィンドウレス鶏舎 1 棟で、2 階建て背中合わせの直立 4 段 4 列ケージで採卵鶏が飼養されていた。
- ③ 当該農場は国内 17 例目、19 例目、23 例目及び 24 例目のそれぞれの発生農場を中心とした半径 3 km 以内の移動制限区域に位置している。

2 通報までの経緯

- ① 国内 17 例目の発生に伴い 11 月 25 日に実施した周辺農場検査において、陰性が確認されていた。
- ② 飼養管理者によると、発生鶏舎（通報時 420 日齢）では、通常の死亡羽数が 1 日当たり 6 羽程度であったところ、12 月 6 日に同一ケージ内で 10 羽中 2 羽の死亡と 2 羽の衰弱を確認したことから、系列会社を通じて家畜保健衛生所に通報したとのこと。通報時に他のケージでは特段の異状は認めなかったが、その後、同日夕方までに更に 5 羽程度の死亡が確認されたとのこと。
- ③ 発生ケージは、2 階南側の列の中央付近の下から 3 段目に位置していたとのこと。
- ④ 調査時、発生ケージと同一の列は既に殺処分が終了していたが、発生ケージに近い裏側の列で死亡鶏が確認された。それ以外のケージでは特段の異状は認めなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では、従業員は 6 名で、このうち 3 名が鶏舎内での飼養管理及び堆肥作業に従事しており、堆肥舎での作業を行う日は鶏舎内作業を行わないよう担当を分けていたとのこと。
- ② 当該農場の従業員は、製品化した堆肥を定期的に系列農場へ搬出していたが、同日に当該農場の鶏舎に入ることはなかったとのこと。また、近隣の系列農場の入雛作業に協力することがあるが、直近は 8 月頃とのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 衛生管理区域入口には車両消毒ゲート及び立入禁止看板が設置されており、夜間はロープがかけられていた。
- ② 飼養管理者によると、従業員は集卵施設内にある更衣室にて衛生管理区域専用作業着及び靴に交換し、手指消毒を行うとのこと。農場に出入りする飼料運搬業者や集卵業者は、系列会社のマニュアルに基づき農場専用作業着や長靴を持参し、着用しているとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、従業員が鶏舎に入る際には、入口外側で衛生管理区域専用靴を

踏込み消毒（逆性石けん、毎日交換）し、前室内用のサンダルに履き替え、鶏舎専用作業着の着用と手指消毒を行い、更に鶏舎専用靴への履き替えを行っているとのこと。鶏舎専用靴は使用前にアルコール消毒を実施するとのこと。

- ④ 飼養管理者によると、堆肥舎等の作業をする場合には、鶏舎内とは別の専用作業着、長靴への交換を実施しており、また鶏舎外で作業した後に鶏舎に立ち入ることがないよう、1日の内で作業者を分けていたとのこと。
- ⑤ 鶏舎から集卵施設に続く集卵ベルトの開口部は、稼働時以外はシャッターが閉まる構造になっていた。
- ⑥ 鶏舎内の鶏糞は除糞ベルトとベルトコンベアにより鶏糞一時保管庫に搬出され、稼働時以外は開口部を塞ぐようにしていたとのこと。一時保管庫の鶏糞は、堆肥舎に運ばれ、堆肥化処理を行い、処理された完熟堆肥は2～3日に一度系列農場（発生時空舎）にある製品化施設に搬出されるとのこと。
- ⑦ 給餌及び給水については、鶏舎内のラインを通して自動で行われる構造となっていた。水は地下水で、定期的に水質検査を実施しており、給水に際しては消毒を実施しているとのこと。
- ⑧ 飼養管理者によると、死亡鶏の回収は朝の見回り時に行い、鶏舎内にある専用箱で一時保管し、3日に1回程度、地域の共同死鳥保管庫に搬出しているとのこと。搬出時には、専用の運搬容器に移し、車両の消毒や靴の履替え、専用作業着への更衣、使用した運搬容器の消毒を実施していたとのこと。
- ⑨ 飼養管理者によると、衛生管理区域内について、11月以降は、人の動きが多い箇所は1日に2回噴霧消毒を実施しているとのこと。
- ⑩ 飼養管理者によると、オールイン・オールアウトを実施しており、アウト後に鶏舎の洗浄・消毒を実施し、その後の空舎期間は45日程度設けているとのこと。
- ⑪ 飼養管理者によると、ウインドウレス鶏舎内の換気は、鶏舎前面のクーリングパッドと側面のインレットから吸気し、後面の換気扇から排気を行っているとのこと。吸気口の外側には1cm四方の金網、排気用の換気扇の外側には換気扇が停止すると自動で閉鎖するシャッターが設置されていた。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場周囲ではカラスやスズメ、ネコを見かけるとのことだった。調査時、農場上空ではツルの飛来が確認された。
- ② 飼養管理者によると、鶏舎内では、ネズミを見かけることはないが、糞は見られるとのこと。ネズミ対策として殺鼠剤を置いているとのこと。調査時、ラットサインは認められなかった。

（以上）